

第145回 山陰外科集談会 プログラム



会期 2020年**12月12日** **土**

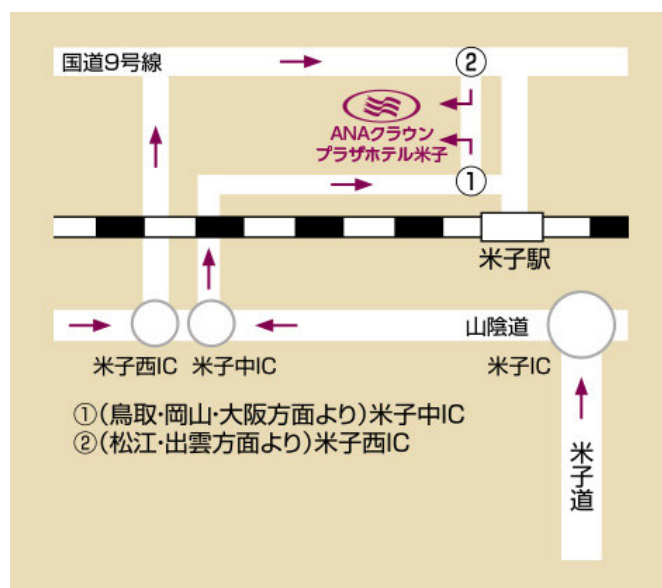
世話人会 12:30～13:00

演題発表 13:00～14:30

会場 **ANAクラウンプラザホテル米子**
〒683-0824 鳥取県米子市久米町53番2号
TEL 0859-36-1111 FAX 0859-36-1115

会長 **中村廣繁** (鳥取大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌外科学分野)

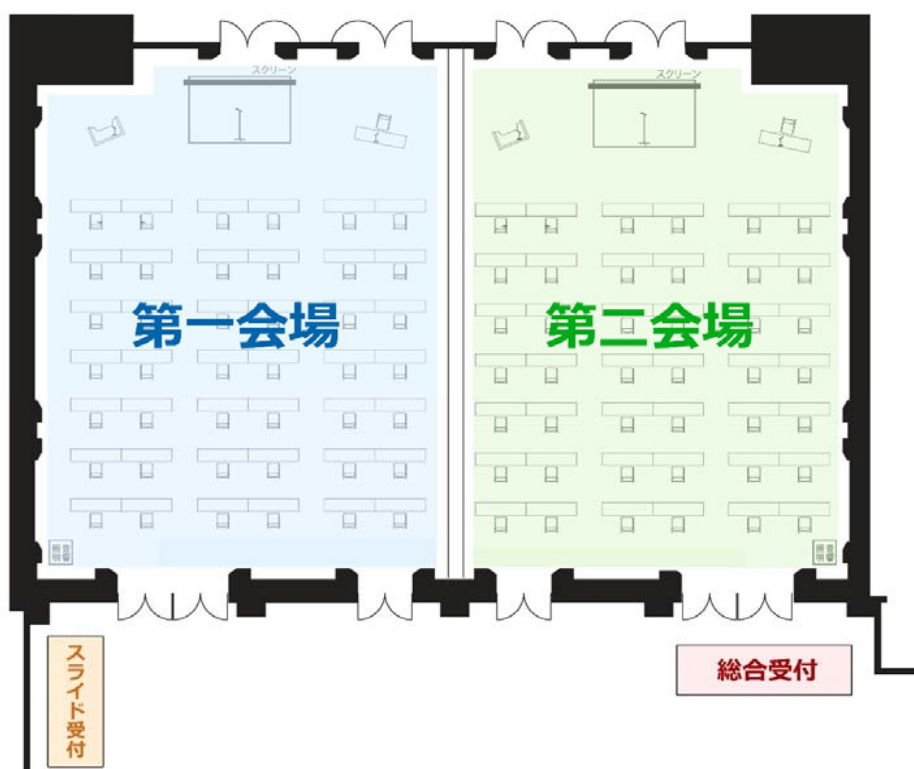
交通のご案内



駐車場

- ホテルの駐車場をご利用ください（無料駐車場 120台）

会場内案内図



参加者へご案内

参加の受付

受付場所	総合受付
受付開始時間	12:30～
受付方法	お名前などを記載した 参加登録票 を、 総合受付 へお渡しください。

参加費

医師	1,000円
研修医（卒後2年目まで）、学生	無料

参加費は当日参加登録受付にてお支払いください。

注意事項

- 参加者の情報や健康状態を把握するため、参加登録票の提出にご協力ください。
- 受付でのやりとりを減らすため、**参加登録票は事前**にご記入ください。
- 感染者発生時、経路特定等理由で政府機関・自治体要請により、個人情報を開示します。
- 厚生労働省の接触確認アプリ「COCOA」をインストールしてご来場ください。
- 発熱、咳、咽頭痛、倦怠感、味覚・嗅覚異常、呼吸困難等がある場合は来場をお控えください。
- 会場内での**手指消毒**、**マスク着用**に協力ください。
- 接触を減らすため、手荷物は最低限に減らし、個人で管理してください。

世話人会のご案内

日 時 2020年12月12日(土) 12:30～13:00

会 場 第一会場

会 費 1,000円（お弁当代）

昼食は**12時より**ご用意しております。

世話人会の受付

受付場所	総合受付
受付開始時間	12:00～

発表時間のご案内

発表	質疑	計
5分	2分	7分

※時間厳守

発表終了**1分前**に呼び鈴にてお知らせします。

座長の皆さまへ

担当セッション開始予定時刻の**15分前まで**に、会場内前方の**次座長席**にご着席ください。

演者の皆さまへ

発表データの受付

受付場所	スライド受付（事前に総合受付で参加受付をしてください）
受付締切時間	発表の30分前まで に試写と動作確認を行ってください。

抄録の提出

提出方法	当日	USBメモリーに入れて、スライド受付へ提出
	後日	kyoubu@med.tottori-u.ac.jpへメール
提出内容	①演題番号 ②演題名 ③所属 ④演者名（共同演者含む） ⑤内容（400 字以内、MS ワード）	
ファイル名	『演題番号(半角) 全角スペース 発表者の氏名』	
締切り	2020年12月25日(金)	

試写・発表方法

発表方法	PC発表（PowerPoint）のみ
使用可能ソフト	Windows Power Point 2007～2016

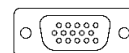
発表にあたっては、次ページに示す「患者プライバシー保護に関する指針」に留意してください。

<データ発表の場合>

提出方法	USBフラッシュメモリー 作成に使用されたPC以外でも必ず動作確認を行ってください。
使用可能フォント	MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝 Arial, Century, Century Gothic, Times New Roman
ファイル名	『演題番号(半角) 全角スペース 発表者の氏名』 動画などのリンクファイルは、発表ファイルと同じフォルダーへ保存

<PC持ち込みによる発表の場合>

会場で用意する PCケーブルの形状	VGA端子（D-SUB mini 15pin コネクタ） パソコンにこの形状がない場合は、変換コネクタが必要です。（HDMI不可） 電源アダプタもお忘れなくご持参ください。
----------------------	--



Macintoshで作成した動画・音声を含む発表データは、必ずご自身のPC本体をお持ち込みください。
前もって外部ディスプレイや液晶プロジェクターに接続して正常に出力できるかどうかご確認ください。

患者プライバシー保護に関する指針

「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」

医療を実施するに際して患者のプライバシー保護は医療者に求められる重要な責務である。一方、医学研究において症例報告は医学・医療の進歩に貢献してきており、国民の健康、福祉の向上に重要な役割を果たしている。医学論文あるいは学会・研究会において発表される症例報告では、特定の患者の疾患や治療内容に関する情報が記載されることが多い。その際、プライバシー保護に配慮し、患者が特定されないよう留意しなければならない。

以下は外科関連学会協議会において採択された、症例報告を含む医学論文・学会研究会における学術発表における患者プライバシー保護に関する指針である。

- 1) 患者個人の特定可能な氏名、入院番号、イニシャルまたは「呼び名」は記載しない。
- 2) 患者の住所は記載しない。但し、疾患の発生場所が病態等に関与する場合は区域までに限定して記載することを可とする。(神奈川県、横浜市など)
- 3) 日付は、臨床経過を知る上で必要となることが多いので、個人が特定できないと判断される場合は年月までを記載してよい。
- 4) 他の情報と診療科名を照合することにより患者が特定され得る場合、診療科名は記載しない。
- 5) 既に他院などで診断・治療を受けている場合、その施設名ならびに所在地を記載しない。但し、救急医療などで搬送元の記載が不可欠の場合はこの限りではない。
- 6) 顔写真を提示する際には目を隠す。眼疾患の場合は、顔全体が分からないよう眼球のみの拡大写真とする。
- 7) 症例を特定できる生検、剖検、画像情報に含まれる番号などは削除する。
- 8) 以上の配慮をしても個人が特定化される可能性のある場合は、発表に関する同意を患者自身(または遺族か代理人、小児では保護者)から得るか、倫理委員会の承認を得る。
- 9) 遺伝性疾患やヒトゲノム・遺伝子解析を伴う症例報告では「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(文部科学省、厚生労働省及び経済産業省)(平成13年3月29日、平成16年12月28日全部改正、平成17年6月29日一部改正、平成20年12月1日一部改正、平成25年2月8日全部改正、平成26年11月25日一部改正、平成29年2月28日一部改正)による規定を遵守する。

平成16年4月6日

(平成21年12月2日一部改正、平成27年8月28日一部改正)

● 外科関連学会協議会加盟学会

日本外科学会、日本気管食道科学会、日本救急医学会、日本胸部外科学会、日本形成外科学会、日本呼吸器外科学会、日本消化器外科学会
日本小児外科学会、日本心臓血管外科学会、日本大腸肛門病学会、日本内分泌外科学会、日本麻酔科学会

● 本指針に賛同している学会

日本肝胆膵外科学会、日本血管外科学会、日本喉頭科学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本乳癌学会、日本腹部救急医学会

- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| ● (平成16年6月4日付) 日本胃癌学会 | ● (平成19年5月11日付) 日本腰痛学会 |
| ● (平成16年6月24日付) 日本食道学会 | ● (平成19年7月9日付) 日本肺癌学会 |
| ● (平成16年9月21日付) 日本整形外科学会 | ● (平成19年12月4日付) 日本膀胱学会 |
| ● (平成17年8月1日付) 日本手外科学会 | ● (平成19年12月20日付) 日本臨床外科学会 |
| ● (平成17年8月20日付) 日本整形外科スポーツ医学会 | ● (平成21年9月15日付) 日本消化器病学会 |
| ● (平成17年9月7日付) 日本外傷学会 | ● (平成21年11月12日付) 日本消化器がん検診学会 |
| ● (平成17年12月14日付) 日本熱傷学会日本美容皮膚科学会 | ● (平成21年12月25日付) 日本門脈圧亢進症学会 |
| ● (平成17年12月16日付) 日本頭蓋顎顔面外科学会 | ● (平成22年1月5日付) 日本皮膚科学会東海地方会 |
| ● (平成17年12月19日付) 日本股関節学会 | ● (平成22年5月11日付) 日本静脈経腸栄養学会 |
| ● (平成17年12月28日付) 日本皮膚アレルギー学会 | ● (平成22年6月5日付) 西日本整形・災害外科学会 |
| ● (平成18年1月27日付) 日本肘関節学会 | ● (平成22年7月9日付) 日本関節病学会 |
| ● (平成18年3月24日付) 日本皮膚科学会西部支部 | ● (平成22年7月20日付) 日本臨床皮膚外科学会 |
| ● (平成18年5月15日付) 中部日本整形外科災害外科学会 | ● (平成22年9月10日付) 日本放射線腫瘍学会 |
| ● (平成18年7月21日付) 日本胆道学会 | ● (平成23年3月30日付) 日本口腔腫瘍学会 |
| ● (平成18年8月3日付) 日本関節鏡学会 | ● (平成24年2月13日付) 日本消化器内視鏡学会 |
| ● (平成18年8月25日付) 東日本整形災害外科学会 | ● (平成24年7月10日付) 日本頭頸部外科学会 |
| ● (平成18年9月6日付) 日本集中治療医学会 | ● (平成24年9月2日付) 日本消化管学会 |
| ● (平成18年11月13日付) 日本ヘルコバクター学会 | ● (平成24年9月5日付) 日本女性心身医学会 |
| ● (平成18年12月8日付) 日本外科代謝栄養学会 | ● (平成24年9月10日付) 日本運動器科学会 |
| ● (平成25年12月5日付) 日本女性医学学会 | ● (平成25年12月25日付) 日本頭頸部癌学会 |
| ● (平成26年7月11日付) 日本鼻科学会 | ● (平成27年6月8日付) 日本緩和医療学会 |
| ● (平成27年9月4日付) 日本心臓血管麻酔学会 | ● (平成27年10月14日付) 日本顔面神経学会 |
| ● (平成30年4月3日付) 日本循環器学会 | ● (平成31年2月7日付) 日本創傷外科学会 |
| ● (令和元年6月5日付) 関東整形災害外科学会 | ● (令和元年9月25日付) 日本フットケア・足病医学会 |

プログラム

● 第一会場

セッション	疾患分類	演題番号	予定時間	座 長
1	食道・胃	01-02	13:00～ 13:14	栗栖 泰郎 (国立病院機構浜田医療センター 外科)
2	小腸・大腸	03-07	13:15～ 13:50	山本 学 (鳥取大学医学部附属病院 消化器外科)
3	肝・胆・膵 ヘルニア・その他	08-12	13:51～ 14:26	徳安 成郎 (鳥取大学医学部附属病院 消化器外科)

● 第二会場

セッション	疾患分類	演題番号	予定時間	座 長
4	乳腺・内分泌	13-15	13:00～ 13:21	若原 誠 (鳥取大学医学部附属病院 乳腺内分泌外科)
5	心臓・血管	16-20	13:22～ 13:57	齋藤 雄平 (松江赤十字病院 心臓血管外科)
6	肺・縦隔	21-24	13:58～ 14:26	高木 雄三 (鳥取大学医学部附属病院 呼吸器外科)

第一会場

食道・胃

セッション 1

13:00～13:14（発表 5 分、質疑 2 分）

座長：栗栖 泰郎（国立病院機構浜田医療センター 外科）

01. SiewertⅡ型食道胃接合部癌に対する経裂孔的切除、食道残胃吻合の術後縫合不全により発症した縦隔炎の 1 例

島根大学医学部附属病院 消化器・総合外科

○川上晃樹（カワカミ コウキ）、平原典幸、松原 毅、梶 俊介、山本 徹、百留亮治、高井清江、内田有紀、石飛一成、田島義証

02. 胃に発生した bronchogenic cyst の 1 例

鳥取大学医学部 器官制御外科学講座 消化器・小児外科

○澤田将平（サワタ ショウヘイ）、宮内 亘、穴戸裕二、宮谷幸造、松永知之、藤原義之

小腸・大腸

セッション 2

13:15～13:50（発表 5 分、質疑 2 分）

座長：山本 学（鳥取大学医学部附属病院 消化器外科）

03. 上行結腸髄様癌の 1 例

鳥取県立中央病院 外科

○岸野幹也（キシノ ミキヤ）、和田大和、尾崎知博、遠藤財範、建部 茂、中村誠一、廣岡保明

04. 上腸管膜動脈閉塞症に対する術中 ICG 蛍光法による血流評価

米子医療センター 消化器外科

○森本昌樹、谷口健次郎、山本 修、奈賀卓司、杉谷 篤

05. 小腸出血を契機に発見された長期ガーゼ遺残の 1 例

島根大学医学部附属病院 消化器・総合外科

○松原加歩（マツバラ カホ）、山本 徹、高井清江、百留亮治、内田有紀、石飛一成、平原典幸、田島義証

06. Pembrolizumab の免疫有害事象である難治性大腸炎を来し、大腸全摘術を要した 1 例

鳥取大学医学部 器官制御外科学講座 消化器・小児外科

○安井千晴（ヤスイ チハル）、山本 学、原 和志、菅澤 健、植嶋千尋、多田陽一郎、谷尾彬充、木原恭一、坂本照尚、本城総一郎、藤原義之

07. 結腸脂肪垂損傷の 1 手術例

島根大学医学部 Acute Care Surgery 講座

○岡 和幸（オカ カズユキ）、恩田禎子、齋藤保隆、田中 航、秋月 光、松本 亮、山本祐太郎、藏本俊輔、室野井智博、下条芳秀、木谷昭彦、比良英司、渡部広明

肝・胆・膵・ヘルニア・その他

セッション 3

13:51~14:26 (発表 5 分、質疑 2 分)

座長：徳安 成郎 (鳥取大学医学部附属病院 消化器外科)

08. 直腸癌術後膵転移に対して膵体尾部切除術を施行した 1 例

島根県立中央病院 外科・消化器外科・乳腺科

○佐々木将貴 (ササキ マサキ)、有田 創、佐倉悠介、樽本浩司、山川達也、服部晋明、山根 佳、大谷 裕、高村通夫、武田啓史、橋本幸直、金澤旭宣

09. 術前診断し得た Amyand's hernia の 1 例

松江市立病院 研修医¹⁾、松江市立病院 消化器外科²⁾、鳥取大学医学部 消化器・小児外科³⁾

○吉田 惇 (ヨシダ ジュン)¹⁾、牧野谷真弘²⁾、福本陽二²⁾、久光和則²⁾、梶谷真司²⁾、河野菊博²⁾、若月俊郎²⁾、藤原義之³⁾

10. イレウスにて発症した左傍十二指腸ヘルニアの 1 例

鳥取赤十字病院 外科

○高橋朋大 (タカハシ トモヒロ)、村上裕樹、山田敬教、前田佳彦、山代 豊、山口由美、齊藤博昭、西土井英昭

11. 後腹膜原発の平滑筋肉腫の 1 例

国立病院機構浜田医療センター 外科

○砂口天兵 (スナグチ テツペイ)、西谷有子、永井 聡、渡部裕志、高橋 節、栗栖泰郎

12. 穿孔性虫垂炎、汎発性腹膜炎に対して開腹下虫垂切除後、腹腔内膿瘍に経皮的ドレナージが奏効した 1 例

鳥取県済生会境港総合病院 外科¹⁾、放射線科²⁾

笹見強志 (ササミ ツヨシ)¹⁾、星野和義¹⁾、玉井伸幸¹⁾、丸山茂樹¹⁾、遠藤雅之²⁾、周藤裕治²⁾

第二会場

乳腺・内分泌

セッション 4

13:00～13:21（発表 5 分、質疑 2 分）

座長：若原 誠（鳥取大学医学部附属病院 乳腺内分泌外科）

13. 乳癌肺転移を疑い肺切除を行った 5 症例の検討

鳥取県立厚生病院 胸部外科¹⁾、血管外科²⁾

○大田里香子（オオタ リカコ）¹⁾、吹野俊介¹⁾、大野貴志¹⁾、兒玉 渉¹⁾、西村謙吾²⁾、浜崎尚文²⁾

14. 遠隔再発巣の切除を繰り返し長期生存した乳腺混合型化生癌の 1 例

米子医療センター 胸部・乳腺外科¹⁾、鳥取大学医学部附属病院 呼吸器外科²⁾、乳腺内分泌外科³⁾

○加藤 彩（カトウ アヤ）¹⁾、万木洋平¹⁾、鈴木喜雅³⁾、中村廣繁²⁾

15. 診断に難渋した巨大嚢胞性腫瘍の 1 例

鳥取大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌外科

○門永 太一（カドナガ タイチ）、中西敦之、野坂祐仁、大島祐貴、松居真司、城所嘉輝、細谷恵子、窪内康晃、若原 誠、高木雄三、田中裕子、春木朋広、鈴木喜雅、中村廣繁

心臓・血管

セッション 5

13:22～13:57（発表 5 分、質疑 2 分）

座長：齋藤 雄平（松江赤十字病院 心臓血管外科）

16. 外傷性膝窩動脈閉塞症の 2 手術例

鳥取県立厚生病院 血管外科¹⁾、胸部外科²⁾

○西村謙吾（ニシムラ ケンゴ）¹⁾、浜崎尚文¹⁾、大田里香子²⁾、大野貴志²⁾、児玉 渉²⁾、吹野俊介²⁾

17. 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術後の難治性 Type Ia エンドリークに対して開腹人工血管置換術を施行した 1 治験例

鳥取大学医学部附属病院 心臓血管外科

○森本健一（モリモト ケンイチ）、原田真吾、樋口達也、仁井陸冬、熊谷国孝、堀江弘夢、大野原岳史、岸本祐一郎、吉川泰司、西村元延

18. 大動脈弁置換術後、mitral-aortic intervalvular fibrosa の穿孔による左室仮性瘤の 1 例

島根県立中央病院 心臓血管外科

○森安真木（モリヤス マキ）、山内正信、金築一摩、花田智樹、上平 聡

19. 高度石灰化を伴った腹部大動脈狭窄病変に対し VIABAHN VBX を留置した 1 例

国立病院機構浜田医療センター 心臓血管外科

○岸本 望（キシモト ノゾミ）、渡部聖人、白谷 卓

20. 心室中隔穿孔に対して IMPELLA5.0 を用いた循環管理後に根治術を施行した 1 治験例

鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター¹⁾、心臓血管外科²⁾

○吉川侑希（ヨシカワ ユウキ）¹⁾、堀江弘夢²⁾、樋口達也²⁾、森本健一²⁾、仁井陸冬²⁾、熊谷国孝²⁾、大野原岳史²⁾、岸本祐一郎²⁾、原田真吾²⁾、吉川泰司²⁾、西村元延²⁾

肺・縦隔

セッション 6

13:58～14:26（発表 5 分、質疑 2 分）

座長：高木 雄三（鳥取大学医学部附属病院 呼吸器外科）

21. 多彩な組織像を認めた胸腺癌の 2 度の再発に対する切除の 1 例

松江赤十字病院 呼吸器外科¹⁾、鳥取大学医学部附属病院 呼吸器外科²⁾
○宮本竜弥（ミヤモト タツヤ）¹⁾、三和 健¹⁾、窪内康晃²⁾、中村廣繁²⁾

22. 急速増大をきたした前縦隔粘液線維肉腫の 1 切除例

鳥取県立中央病院 呼吸器・乳腺・内分泌外科¹⁾、心臓血管外科²⁾
○藤原和歌子（フジワラ ワカコ）¹⁾、深谷由美¹⁾、松岡佑樹¹⁾、宮坂成人²⁾、前田啓之¹⁾

23. 超高齢（90 歳以上）肺癌切除の 4 例

浜田医療センター 呼吸器外科¹⁾、呼吸器内科²⁾、病理診断部³⁾、鳥取大学 呼吸器外科⁴⁾
○小川正男（オガワ マサオ）¹⁾、小林美郷²⁾、柳川 崇²⁾、長崎真琴³⁾、高木雄三⁴⁾、春木朋広⁴⁾

24. 当院における降下性壊死性縦隔炎の検討

鳥取県立厚生病院 胸部外科¹⁾、血管外科²⁾
○大野貴志（オオノ タカシ）¹⁾、吹野俊介¹⁾、大田里香子¹⁾、兒玉 渉¹⁾、西村謙吾²⁾、浜崎尚文²⁾



特定生物由来製品 処方箋医薬品^{注)}

血漿分画製剤(生理的組織接着剤)

薬価基準収載



ベリプラスト[®] P コンビセット 組織接着用

Beriplast[®] P Combi-Set Tissue adhesion

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

★効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

資料請求先：

CSLベーリング株式会社

〒107-0061 東京都港区北青山一丁目2番3号

くすり相談窓口 TEL：0120-534-587

Touch The Next Medical Design with

SRS 4K Switcher

[SRS 4K Switcherの未体験の直感的操作感が
術者のイメージ通りの手術映像コントロールを約束します]



New Release



株式会社 Medi Plus
〒141-0022
東京都品川区東五反田5丁目3番5号サン池田山3F
TEL : 03-5421-8446 FAX : 03-3441-6693

がんに勝ちたい、もっと。

家族と一緒にいたい、もっと。

患者さんを笑顔にしたい、もっと。

革新的な薬を届けたい、もっと。



がんと向き合う
一人ひとりの想いに
応えたい。

私たちMSDは、革新的ながん治療薬を
開発する情熱を抱き、
一人でも多くの患者さんに
届けるという責任をもって
がん治療への挑戦を続けています。

WINNING
MORE
AGAINST
CANCER

MSD株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北 1-13-12 北の丸スクエア
<http://www.msd.co.jp/>



hvc
human health care

患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病氣とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていきたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病氣を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。



INNOVATING
WITH
PATIENTS
AND
PROVIDERS
IN MIND

より良い医療の実現を目指して

Further, Together
共に医療を次のレベルへ

medtronic.co.jp

コヴィディエンジャパン株式会社

Medtronic



PrecisionID

病院内物流にRFIDを取り入れ、効率性・精密性・安全性に革新を



小西医療器株式会社

<http://www.kns-md.co.jp/>

本社 ☎ 06-6941-1363
 大阪営業所 ☎ 06-4805-7350
 東京営業所 ☎ 03-5303-7887
 京都営業所 ☎ 075-693-9225
 神戸営業所 ☎ 078-686-0120
 広島営業所 ☎ 082-501-3702

鳥取営業所 ☎ 0857-28-7107
 米子営業所 ☎ 0859-33-4671
 松江営業所 ☎ 0852-25-1590
 出雲営業所 ☎ 0853-22-9255
 浜田営業所 ☎ 0855-24-3533
 栃木出張所 ☎ 0285-40-0091

大阪物流センター ☎ 06-4805-7231
 近畿SPDセンター ☎ 06-4805-7281
 山陰物流センター ☎ 0859-33-6611
 山陰SPDセンター ☎ 0859-33-8080
 松江SPDセンター ☎ 0852-25-1520



FS 516014 / ISO 9001:2015
 MD 516015 / ISO 13485:2016



末梢性神経障害性疼痛治療剤

薬価基準収載

タリージェ錠 2.5mg・5mg
 10mg・15mg

一般名：ミロガバリンベシル酸塩 (Mirogabalin Besilate)
 処方箋医薬品 注意－医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む
 使用上の注意等の詳細については、
 添付文書をご参照ください。

製造販売元（文献請求先及び問い合わせ先を含む）



第一三共株式会社
 東京都中央区日本橋本町3-5-1

2020年1月作成

ETHICON
PART OF THE JOHNSON & JOHNSON FAMILY OF COMPANIES



より綺麗なステイプル形成を目指して

GST
SYSTEM

Powered
ECHELON FLEX® GST System



製造販売元: ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカル カンパニー 〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号 TEL (03) 4411-7905
管理医療機器 販売名: エンドスコピック パワード リニヤー カッター 認証番号: 22500BZX00396000 高度管理医療機器 販売名: GSTカートリッジ 承認番号: 22700BZX00155000

ETHA0287-01-201509
©J&J KK 2015

Abraxane®

抗悪性腫瘍剤

薬価基準収載

特定生物由来製品、毒薬、処方箋医薬品（注意—医師等の処方箋により使用すること）

アブラキサン® 点滴静注用 100mg

Abraxane® I.V. Infusion 100mg

パクリタキセル注射剤（アルブミン懸濁型）

「効能・効果」、「用法・用量」、「警告、禁忌を含む使用上の注意」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元
資料請求先
(医薬品情報課)



大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.0120-20-4527 FAX.03-3293-2451
<https://www.taiho.co.jp/>

提携先

Abraxis 米国
BioScience

2017 年6月作成



Better Health, Brighter Future

一人でも多くの人に、かけがえのない人生をより健やかに過ごしてほしい。

タケダは、そんな想いのもと、1781年の創業以来、人々の人生を変えうる革新的な医薬品の創出を通じて社会とともに歩み続けてきました。

タケダはこれからも、グローバルなバイオ医薬品のリーディングカンパニーとしてより健やかで輝かしい未来を、世界中の人々へお届けするために挑戦し続けます。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp





抗悪性腫瘍剤／抗PD-L1^{注1)}ヒト化モノクローナル抗体
生物由来製品、創薬、処方箋医薬品^{注※)}
テセントリク[®] 点滴静注 1200mg
TECENTRIQ[®] atezolizumab
アテゾリズマブ（遺伝子組換え）注
 特許、ホフマン・ラ・ロシュ社（スイス）登録商標

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF^{注2)}ヒト化モノクローナル抗体
生物由来製品、創薬、処方箋医薬品^{注※)}
アバスタ[®] 点滴静注用 100mg/4mL 400mg/16mL
AVASTIN[®] bevacizumab
ベバシズマブ（遺伝子組換え）注

注1) PD-L1: Programmed Death-Ligand 1
 注2) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor
 （血管内皮増殖因子）
 注※）注意－医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

製造販売元  **中外製薬株式会社** （資料請求先）メディカルインフォメーション部
 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1 TEL.0120-189706 FAX.0120-189705
ロシュグループ

2019年1月作成

Touch The Next Medical Design with **SRS Smart Composer**

【 SRS Smart Composerの未体験の直感的操作感が
 術者のイメージ通りの手術映像コントロールを約束します 】



販売代理店
 ニプロ株式会社
 〒531-8510 大阪市北区本庄西3-9-3
 TEL:06-6372-2331



Novartis Pharma K.K.

新しい発想で医療に貢献します

ノバルティスのミッションは、より充実した、すこやかな毎日のために、新しい発想で医療に貢献することです。

イノベーションを推進することで、治療法が確立されていない疾患にも積極的に取り組み、新薬をより多くの患者さんにお届けします。

 NOVARTIS

ノバルティス ファーマ株式会社

<http://www.novartis.co.jp/>

JOINING FORCES

進行乳がん^{*1}治療に、新たな力を。内分泌療法剤との“併用”によって
さらなるPFS延長を実現^{*2}したCDK4/6阻害剤。

^{*1} 手術不能又は再発乳癌
^{*2} PALOMA-2: Finn, R.S. et al.: N Engl J Med 375(20): 1925, 2016
PALOMA-3: Turner, N.C. et al.: N Engl J Med 373(3): 209, 2015

【警告】

1. 本剤は、緊急時に十分対応できる医療施設において、がん化学療法に十分な知識・経験を持つ医師のもとで、本剤の投与が適切と判断される症例についてのみ投与すること。また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから投与すること。
2. 間質性肺疾患があらわれ、死亡に至った症例も報告されているので、初期症状(呼吸困難、咳嗽、発熱等)の確認及び胸部X線検査の実施等、患者の状態を十分に観察すること。異常が認められた場合には、本剤の投与を中止し、必要に応じて、胸部CT、血清マーカー等の検査を実施するとともに、適切な処置を行うこと。【「慎重投与」、「重要な基本的注意」、「重大な副作用」の項参照】

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 妊婦又は妊娠している可能性のある女性【「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照】

効能・効果

手術不能又は再発乳癌

【効能・効果に関連する使用上の注意】

1. 本剤の手術の補助療法としての有効性及び安全性は確立していない。
2. 本剤の投与を行う場合には、ホルモン受容体陽性、HER2陰性の患者を対象とすること。

用法・用量

内分泌療法剤との併用において、通常、成人には1回125 mgを3週間連続して食後に経口投与し、その後1週間休薬する。これを1サイクルとして投与を繰り返す。なお、患者の状態により適宜減量する。

【用法・用量に関連する使用上の注意】

1. 併用する内分泌療法剤等について、「臨床成績」の項の内容を熟知し、本剤の有効性及び安全性を十分に理解した上で、選択を行うこと。
2. 本剤の血中濃度が上昇すると報告があるため、重度の肝機能障害患者では、減量を考慮するとともに、患者の状態をより慎重に観察し、有害事象の発現に十分注意すること。【「慎重投与」及び「薬物動態」の項参照】
3. 副作用があらわれた場合は、以下の基準を考慮して、休薬、減量又は投与を中止すること。なお、本剤は75 mg/日未満に減量しないこと。

(1) 減量して投与を継続する場合の投与量

減量レベル	投与量
通常投与量	125 mg/日
一次減量	100 mg/日
二次減量	75 mg/日

(2) 好中球減少症及び血小板減少症に対する用量調節

副作用	処置
Grade 1又は2	同一投与量を継続する。
Grade 3	休薬し、1週間以内に血液検査(血球数算定)を行う。Grade 2以下に回復後、同一投与量で投与を再開する。
Grade 3 好中球減少に付随して38.5℃以上の発熱又は感染症がある場合	Grade 3の好中球減少の回復に日数を要する場合(1週間以上)や次サイクルでGrade 3の好中球減少が再発する場合は、減量を考慮すること。
Grade 4	Grade 2以下に回復するまで休薬する。回復後、1レベル減量し投与を再開する。

GradeはCTCAE ver. 4.0に準ずる。

(3) 非血液系の副作用に対する用量調節

副作用	処置
Grade 1又は2	同一投与量を継続する。
Grade 3以上 治療しても症状が継続する場合	Grade 1以下又はGrade 2で安全性に問題がない状態に回復するまで休薬する。回復後、1レベル減量し投与を再開する。

GradeはCTCAE ver. 4.0に準ずる。

使用上の注意

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 重度の肝機能障害のある患者【本剤の血中濃度が上昇し、副作用が強くあらわれるおそれがある。用法・用量に関連する使用上の注意、及び「薬物動態」の項参照】
- (2) 間質性肺疾患のある患者又はその既往歴のある患者【間質性肺疾患が増悪するおそれがある。【「警告」、「重要な基本的注意」、「重大な副作用」の項参照】】

2. 重要な基本的注意

- (1) 骨髄抑制があらわれることがあるので、本剤の投与開始前及び投与中は定期的に血液検査を行い、患者の状態を十分に観察すること。【「重大な副作用」の項参照】
- (2) 間質性肺疾患があらわれることがあるので、本剤の投与にあたっては、初期症状(呼吸困難、咳嗽、発熱等)の確認及び胸部X線検査の実施等、患者の状態を十分に観察すること。また、患者に副作用について説明するとともに、間質性肺疾患の初期症状が発現した場合には、速やかに医療機関を受診するよう説明すること。【「警告」、「慎重投与」、「重大な副作用」の項参照】

3. 相互作用

本剤は、*in vitro*試験より、主にCYP3A及び硫酸転移酵素(SULT)2A1によって代謝され、CYP3Aに対して時間依存的な阻害作用を示す。また、*in vivo*試験より、本剤はCYP3Aに対して弱い阻害作用を示す。【「薬物動態」の項参照】

併用注意(併用に注意すること)

CYP3A阻害剤(コピシタット、エルビテグラビル、インジナビル、イトラコナゾール、リトナビル、デラブプレビル、ボリコナゾール、クラリスロマイシン、グレープフルーツジュース、ネルフィナビル、サキナビル等)、強いCYP3A誘導剤(フェニトイン、カルバマゼピン、リファンピシン、リファブチン、フェノバルビタール、セイヨウオトギリソウ含有食品等)、CYP3Aの基質となる薬剤(ミダゾラム、フェンタニール等)

4. 副作用

HR陽性かつHER2陰性であり、進行乳癌に対して内分泌療法のない手術不能又は再発乳癌患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験において、本剤が投与された444例(日本人32例を含む)中428例(96.4%)に副作用が認められた。主な副作用は、好中球減少症348例(78.4%)、白血球減少症171例(38.5%)、脱毛症140例(31.5%)、疲労134例(30.2%)、口内炎103例(23.2%)、悪心96例(21.6%)、関節痛87例(19.6%)、貧血85例(19.1%)、感染症85例(19.1%)、ほてり79例(17.8%)、下痢66例(14.9%)、血小板減少症65例(14.6%)、無力症55例(12.4%)、発疹48例(10.8%)等であった。(承認時までの集計)

HR陽性かつHER2陰性であり、内分泌療法に抵抗性の手術不能又は再発乳癌患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験において、本剤が投与された345例(日本人27例を含む)中325例(94.2%)に副作用が認められた。主な副作用は、好中球減少症285例(82.6%)、白血球減少症198例(57.4%)、疲労114例(33.0%)、貧血96例(27.8%)、悪心87例(25.2%)、血小板減少症80例(23.2%)、口内炎70例(20.3%)、脱毛症57例(16.5%)、感染症50例(14.5%)、下痢45例(13.0%)、ほてり45例(13.0%)、発疹40例(11.6%)等であった。(承認時までの集計)

(1) 重大な副作用

1) 骨髄抑制

好中球減少(80.2%)、白血球減少(46.8%)、貧血(22.9%)、血小板減少(18.4%)、発熱性好中球減少症(1.5%)等があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には休薬、減量等の適切な処置を行うこと。【「重要な基本的注意」の項参照】

2) 間質性肺疾患

間質性肺疾患(頻度不明)があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には、本剤の投与を中止し、必要に応じて、胸部CT、血清マーカー等の検査を実施するとともに、適切な処置を行うこと。【「警告」、「慎重投与」、「重要な基本的注意」の項参照】

承認条件

医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

2019年7月改訂(第4版)

●その他の使用上の注意等については製品添付文書をご参照ください。

抗悪性腫瘍剤(CDK4/6阻害剤)

イブランス®カプセル
25mg
125mg

IBRANCE® 25mg・125mg Capsules パルボシクリンカプセル (薬価基準収載)

(製薬) 武田薬品工業 注冊一部等の処方箋により使用すること

製造販売(輸入)

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7

文献請求先及び問い合わせ先：製品情報センター

2019年9月作成
IBN72H002F

Pfizer Oncology

第145回 山陰外科集談会 事務局

鳥取大学医学部 器官制御外科学講座

呼吸器・乳腺内分泌外科学分野

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1

TEL 0859-38-6737 FAX 0859-38-6730

E-mail kyoubu@med.tottori-u.ac.jp

<https://www.med.tottori-u.ac.jp/thoracicsurg/>